

# まとまりのある文章が書けるようになる指導法の確立

—談話的気づきを促進するための方法—

M17EP008  
藤城 妙子

## 1. はじめに

中学校・高校の英語の授業で行われる「書くこと」の指導といえば、これまでは単文レベルでの英作文指導が主であった。しかし、単文を並べただけの文章では、十分に自分の考えを表現することができない。そこで、まとまりのある文章を書くことができる力が必要となるが、そのような指導が授業で系統的に行われてきたとは言えない。つまり、生徒に「まとまりのある文章が書けるようになる力」を身につけさせる指導をしたくても、教師の側で効果的な方法が分からないし、生徒が目標とする明確なモデルがあるわけでもないからだ。

平成24年に実施した「特定の課題に関する調査（英語：『書くこと』）」の結果から、国立教育政策研究所教育課程研究センター（2012）は「書くこと」の力が課題であることを指摘し、「文と文のつながりを工夫し、まとまりのある文章を書く力を育成する指導が求められる(p.35)」とまとめている。

さらに、新学習指導要領「英語コミュニケーションI」における「1目標（5）書くこと」では「ア日常的な話題について、……、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようにする」、「イ 社会的な話題について、……、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようにする」としている。つまり、「一文一文のつながりを考えながら、文章全体として論理的に一貫性のある文章を理解したり、書いたりできるような力」を身につけることが望まれている。本研究では、このような力を談話能力と呼ぶ。

また、実用英語技能検定試験では2016年第1回検定から2級に、2017年第1回検定からは準2級と3級にもライティングテストを導入した。実用英語技能検定試験は求める解答として、接続詞や順序数詞を使って英文の構成や流れを分かりやすく論理的にしているか、内容が一貫しているかなどのチェック項目を挙げている。このように、生徒の「まとまりのある文章が書けるようになる力」を育てる必要があることが分かる。

そこで、本研究では生徒が多様な話題について自分の考えを表現することができるようになるために、様々な活動を通して、生徒の談話的気づきを促進する方法を考えることとする。ただし、生徒が過度な負担感を感じるような段階を踏んだ指導法、および意欲をもって「書くこと」に向き合えるような指導法を確立したい。

## 2. 先行研究

「まとまりのある文章」に関しては、達川（2013）が「英語教育とりわけ英語科教育に求められている『論理的な思考力や判断力・豊かな表現力の育成』の最終的な目標としては、『まとまりのある英語の文章（談話）を理解し、英語で表現する力を育てること』といえることができる(p.126)」と説明している。単文レベルでの書くことの指導ではなく、生徒に一文一文のつながりを考えさせる必要があるといえる。さらに達川（2013）は、「文相互の関係性を理解・意識することは、…（中略）…、コミュニケーション能力の構成概念の一つである『談話能力（discourse competence）』を伸長させることであると換言できる

(p.126)」と述べている。

では、談話能力はどのような力から構成され、それはどのように測定・判断されるのか。

「談話能力 (discourse competence) にかかわるテスト」を、田中 (1994 : 298-299) は以下の6つに分類している。

- (a) 代名詞がどの名詞を指すかを指摘する
- (b) 連結詞で文を連結する
- (c) 関係詞で文をつなぐ
- (d) 文の配列が最適のものを選ぶ
- (e) 組み合わせで意味のおおる文を作る
- (f) テキスト中に挿入された不要な文を指摘する

このような問を指導に用いることで、生徒の談話的気づきを促進することができる可能性がある。

さらに、三浦 (1987) は「文は分析することによってではなくて、結合することによって成長するもの(p.28)」と説明し、センテンスコンバイニングを「書くこと」の指導に取り入れることを推奨している。

また、大井 (2018) は「構成という点では、『型』を意識して書くことが一番大切ですが、文と文との接続がスムーズにいくように『つなぎ言葉』を適宜使い、読み手に文章の流れが良く伝わるようにするのも大事なことです(p.37)」と述べ、「型」や「つなぎ言葉」の指導が文章を構成する力を伸ばすことに役立つとしている。同様に「型・枠」という考え方を採用している『技能演習シリーズ Path to Writing 1』(株式会社ランズ, 2018) など新しいタイプの英作文問題集も発行されている。

一方、日本語教育では談話構造分析を取り入れた作文指導として、宮谷 (2001) において「フローチャートなどで文章の論理展開を与えそれに沿って書く方法や、モデル作文を

読みそれを参考にして書くといった方法(p.17)」が採用されており、また、門脇薫・西馬薫 (1999) が著した『みんなの日本語初級やさしい作文』は「型・枠」を活用した作文練習用の問題集となっている。

本研究は、生徒が「まとまりのある文章」を書くことによって、自分の考えを表現することができるようになるための指導法の確立を目的としている。「まとまりのある文章」とは「ある一定の語数で構成され、つなぎ言葉が内容を伝えるために適切に使用されている文章であり、『型・枠』が意識された構成の文章である」と考える。したがって談話に関係した指導の前後で、①文章の総語数が増えること、②文章中で使用するつなぎ言葉の数が増えること、③「型・枠」を意識しながら文章を書くことができること、において個人に向上が見られるかどうかを検証することを本研究の目標とする。

### 3. 方法

#### (1) 研究目的

生徒が「まとまりのある文章」を書くことによって、自分の考えを表現することができるようになるための指導法を確立すること。

#### (2) 被験者

山梨県内の県立高校1年生36名で、コミュニケーション英語Iの授業で調査を実施した。調査に参加した生徒の多くは、英語に苦手意識を持っているが、様々な課題に真面目に熱心に取り組むことができる生徒である。

#### (3) 調査方法

コミュニケーション英語Iの授業の始め10～15分程度で談話的気づきを促進するための指導を4回、30分で実際に文章を書かせる指導を1回、合計5回の指導を実施した。指導前後には「まとまりのある文章」を書く課題に取り組みせ、課題を評価しその違いを比較した。また、事後アンケートとインタビ

ューを実施し、生徒の「書くこと」への意識の変化を調査した。

談話的気づきを促進するための課題を設定するに当たり、つねに「課題が生徒の処理できる範囲」を超えないようにすることを心がけた。課題に取り組むのにはどうしても談話以外の力、たとえば語彙力などが必要になってくる。談話の力だけを研究の対象とするためには、談話以外のすべての要素を取り除くことが必要であると考えた。しかし、実際の授業場面を想定すると、談話以外の要素をすべて取り除くことは不可能であるので、できるだけ支障のない程度にそれらを取り除くこととした。語彙については自由に辞書を使うことを認めたり、注釈をつけて日本語を与えたりした。また、課題に取り組む生徒には project のゴールである「まとまりのある文章を書けるようになる」とつねに意識できるように声かけを行った。

表1 「書くこと」の指導計画

- ①指導前の課題英作文  
「好きなものを紹介しよう」
- ②-1 「談話の意識」を認識するために  
～つなぎ言葉のある文章・ない文章～
- ②-2 センテンスコンバイニング
- ②-3 つなぎ言葉を含む英文を並べかえて、論理的な段落を作る
- ②-4 下線部に適当な文を入れて、英文を完成させる
- ②-5 「型・枠」を与えての英作文  
「会ってみたい人物について書こう」
- ③指導後の課題英作文  
「今、行きたいところについて書こう」

表1に示すように、指導前後で課題英作文に取り組ませた。作文の採点は、ALTに依頼し、筆者が設定した項目で採点を実施した。採点項目は、①discourse(文のまとまり)、②

content(内容)、③accuracy(正確さ)、④consistency(一貫性)の4つで、各項目6点を満点とする。⑤totalは、①～④の合計点24点を満点として合算したものである。そのほか、作文の分量(語数)とつなぎ言葉の使用数を調べることにし、指導の前後でどのような違いがあるのか検証した。表2に指導で使った課題の一部を示す。

表2 指導に用いた課題

- ②-1  
⇒つなぎ言葉のない文章を最初に示し、その後、つなぎ言葉のある文章を示す。(二重傍線部がつなぎ言葉)  
Did you know that tennis players often sit down between games and eat bananas? There are a few reasons for this. First, bananas give you energy for a long time. Second, bananas have many minerals. One of minerals helps you when you are tired. Third, something in bananas \*keeps you from feeling angry. Finally, they are cheap and delicious. So bananas are one of the best fruits for you.  
\*あなたが～するのを防ぐ  
ONE WORLD English Course 3  
(KYOUIKU SHUPPAN)
- ②-2  
⇒文脈に合うつなぎ言葉を選ぶ。  
1) Hiro was playing the guitar ( and / when / so ) Aya gave him a call.  
2) Let's go on a picnic ( after / if / however ) it is sunny tomorrow.  
3) This movie is long ( but / and / when ) very interesting.  
4) Yuki wants to be a photo journalist ( if / however / because ) photos have great power.

②-3

⇒つなぎ言葉に注目しながら英文を並べかえ、論理的な段落を作る。(二重傍線部がつなぎ言葉)

ア First, there are more high schools in the city.

イ It is better for junior high school students to live in the city than in the country.

ウ Second, the city has more \*facilities that are good for students. \*施設

エ For example, Minami City has more than ten libraries.

オ I have two reasons for thinking so.

カ Students can choose the school they want to \*enter. \*入学する

キ Also, it has three museums.

ONE WORLD English Course 3  
(KYOUIKU SHUPPAN)の本文を用いて  
達川奎三(2013)を参考に筆者が問題を作成

②-4

⇒文が成り立つように、下線部に適当な英語を入れる。

1) I want to be a doctor in the future because\_\_\_\_\_.

2) Let's go swimming in the pool tomorrow if\_\_\_\_\_.

3) Every dish in this restaurant was very good. However,\_\_\_\_\_.

4) I have caught a cold. Therefore, \_\_\_\_\_.

達川奎三(2013)を参考に筆者が問題を作成

②-5

⇒「型・枠」の指示に従って、まとまりのある文章を書く。以下は「型・枠」の例。

▶「私は～に会ってみたい」から書き始めよう。

▶「その人」はどんな人か説明しよう。

▶「その人」に会いたい理由を説明しよう。

▶「その人」に会ったらやってみたいこと、お願いしてみたいことは何か、書いてみよう。

▶もう一度、「その人」に会いたい気持ちを強く言おう。

株式会社ラーンズ 2018

『技能演習シリーズ Path to Writing 1』

を参考に筆者が「型・枠」を作成

生徒はどの課題にも積極的に取り組むことができた。表2指導に用いた課題②-1は「談話の意識」を認識するために行った指導である。まず、つなぎ言葉のない文章を読ませる。その後、同じ英文でつなぎ言葉のある文章を読ませ、クラス全体で気づきや感想を共有した。「つなぎ言葉がある方が、分かりやすかった」、「順番を表す言葉があるから、情報を整理しながら読むことができた」、「つなぎ言葉がなくても意味は分かるが、あった方が読みやすい」など、生徒の意識をつなぎ言葉に向けることができた。

さらに、②-2、②-3、②-4の課題を通して、つなぎ言葉への理解を深めることができるように授業を計画した。特に②-4では、つなぎ言葉の使い方の確認をさせた。句や節に対する理解はほとんどされていないので、今回は、つなぎ言葉の意味とその後「主語+動詞」が続くことの確認のみにとどめた。②-5は「型・枠」の指示に従って「まとまりのある文章」を書く課題である。与えられた「型・枠」の指示に従うことで、文章のまとまりを意識することができるように設定した。

#### 4. 結果

指導前の課題英作文「好きなものを紹介しよう」と指導後の課題英作文「今、行きたいところについて書こう」を、①discourse(文

のまとまり), ②content (内容), ③accuracy (正確さ), ④consistency (一貫性)の各6点, 合計24点満点でALTが採点した結果を以下に示す. 語彙や文法の正確さは③accuracyに含み, ④consistencyは課題英作文のテーマ「好きなものを紹介しよう」, 「今, 行きたいところについて書こう」に対しての一貫性を評価した. 得点は36名の生徒の平均点である.

表3 課題英作文の採点結果

	指導前	指導後	伸び
総語数	42.86	54.17	11.31
つなぎ言葉数	1.91	3.09	1.18
discourse	1.91	3.06	1.15
content	2.11	2.74	0.63
accuracy	2.03	2.74	0.71
consistency	4.97	5.06	0.09
total	11.06	13.60	2.54

※総語数とつなぎ言葉数の結果は語の数

※discourse, content, accuracy, consistencyの結果は6点満点, totalは24点満点

すべての項目で, 指導後の課題英作文において成果が見られた. 特に指導の前後で検証すべき①文章の総語数が増えること, ②文章中で使用するつなぎ言葉の数が増えること, において向上が見られた. discourseの得点の伸びも「文にまとまりが出てきた」ことを表していると考えられる.

さらに, 指導前の課題英作文のtotal(合計点)の上位5名と下位5名の生徒の指導前後の伸びは, 表4が示す結果となった. 指導前の課題英作文の得点に関わらず, 談話的気づきを促進するための指導を行った結果, 生徒の「まとまりのある文章を書く力」を向上させることができた. クラス全体のtotal(合計点)の伸びが平均2.54点だったことから, 特に下位の生徒(指導前後の伸びは平均3.4

点)に指導の効果があったと考えられる.

表4 指導前の課題英作文のtotal(合計点)の違いによる指導前後の伸び

上位5名	指導前(点)	指導後(点)
生徒A	17	19
生徒B	16	10
生徒C	15	23
生徒D	14	21
生徒E	14	16
平均点(点)	15.2	17.8

※上位5名の得点の伸びは平均2.6点

下位5名	指導前(点)	指導後(点)
生徒F	7	10
生徒G	6	5
生徒H	6	13
生徒I	6	10
生徒J	4	8
平均点(点)	5.8	9.2

※下位5名の得点の伸びは平均3.4点

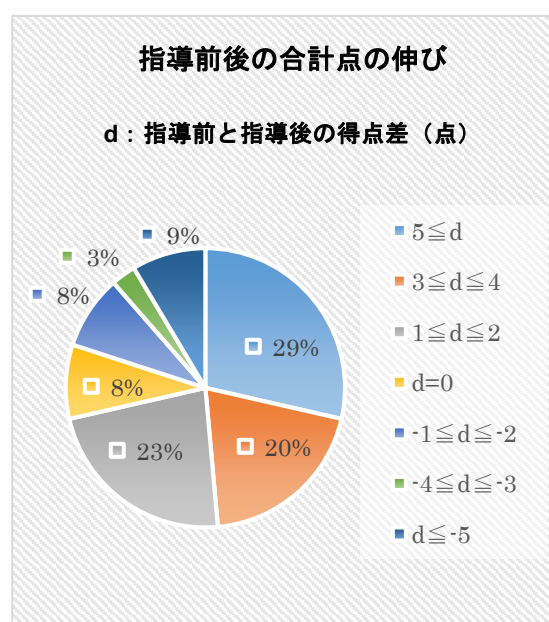


図1 指導前後のtotal(合計点)の伸び

また、指導前後の total（合計点）の伸びの分布状況を調べると、クラス全体の約3割の生徒が指導前後で5点以上の伸びを示している。最も得点が伸びた生徒は、指導後の課題で11点得点を向上させた。一方で、約1割の生徒は、5点以上得点が下がってしまったが、全体の7割以上の生徒に1点以上の得点の伸びが見られたことから、今回の指導は「まとまりのある文章を書く力」を伸ばす指導としては一定の効果があったと言える。図1に得点の分布状況を示す。

次に、指導の結果がよく現れた生徒とあまり現れなかった生徒の例を示す。ここで言う指導の結果がよく現れた生徒とは「指導前後の課題英作文の total（合計点）の伸びが大きい生徒」のことを指す。

<指導の結果がよく現れた生徒>

①「指導前」の課題（原文のまま）

“好きな映画や音楽、本や漫画を紹介しよう”

**My favorite movie is Star Wars. I like fantasy and a battle movie. Star Wars is very famous movie. It a character is cool and cute. It interesting so I've been the movie many times. I wish you see Star Wars. (41words)**

(discourse:2 / total:10)

③「指導後」の課題（原文のまま）

“今、行きたいところについて書いてみよう”

**I want to visit to France. France is very beautiful. I have two reasons. First, I want to go to Mont Saint Michel. It is world heritage. It's cool. Second, I want to eat French food. It's very delicious. So, I will go to France in the future. (47words)**

(discourse:6 / total:19)

<指導の結果があまり現れなかった生徒>

①「指導前」の課題（原文のまま）

“好きな映画や音楽、本や漫画を紹介しよう”

**I like best movie is Arrietty. It is very little and cute. Arrietty lives under the house. That house lives in three people. This movie is very interesting. Because that watching excited. (32words)**

(discourse:2 / total:12)

③「指導後」の課題（原文のまま）

“今、行きたいところについて書いてみよう”

**I want to go to Korean. Korean is extremely popular among young people. Korean is many delicious food. And prices are low in Korea. At first I go to Korean yatai. I eat Toppogi and cheese Dakkarubi. Next I go to popular spot take a picture. I want to go to Korea. (53words)**

(discourse:2 / total:13)

指導の結果がよく現れた生徒、あまり現れなかった生徒ともに、課題英作文の総語数と文章中で使用したつなぎ言葉の数が増加した。一方、total（合計点）には両者に大きな差が見られた。特に discourse（文のまとまり）の伸びに違いが見られ、指導の効果の現れかたが差を生んだと考えられる。

指導後の課題英作文に取り組んだ後、生徒に今回の指導に関するアンケートおよびインタビューを実施した。生徒の感想の代表的なものを以下に示す。（原文のまま）

- ・まとまりのある文を書こうとする意識を持つことができた。
- ・英文を書くときに、話がばらばらになってしまったりしていたけど、今回のプロジェクトで、何をどの順番で書いたら良いのか、なんとなく分かった。
- ・つなぎ言葉を使えば、文の流れができて、

読みやすく分かりやすくなるのを知れて良かった。

- ・自分にしか伝わらないような文ではなく、相手に読みやすく伝わりやすい文を書けるようになったと思う。
- ・長文を読むときに役立っている。
- ・これからもっと文法や単語を勉強すれば書きたいことが書けるようになると思う。

これらの生徒の感想から、生徒に「まとまりのある文章を書こう」という意識は十分に育っていると判断できる。そこには「読みやすいように伝わりやすいように書く」という、コミュニケーションの相手（今回は読み手）への配慮も見られる。

## 5. 考察

本研究は、生徒が「まとまりのある文章」を書くことによって、自分の考えを表現することができるようになるための指導法の確立を目的とし、さまざまな指導法を試みた。指導前後の課題英作文で、①文章の総語数が増えること、②文章中で使用するつなぎ言葉の数が増えること、③「型・枠」を意識しながら文章を書くことができるようになること、を評価の基準として設定した。

指導前後の生徒の課題英作文では、総語数の増加とつなぎ言葉数の増加が見られただけでなく、discourse（文のまとまり）の得点もアップしている。指導の1時間目に「談話の意識」を認識するための活動を行ったことが、その後の生徒のモチベーションにつながったと考えられる。その結果、課題に取り組むことにより、「つなぎ言葉」がまとまりのある文章を構成するために重要な役割を果たしていることに気づいたと考える。

また、指導前後の課題英作文の得点において、クラスの約7割で1点以上の向上が見られたことを考えると、指導レベルとしては妥当性があったと考える。さらに、「相手に読み

やすく伝わりやすい文を書けるようになった」という感想から、コミュニケーションの相手（今回は読み手）への配慮ができるようになるなど、コミュニケーションに向かう態度にも変化が表れた。

しかし、指導の結果があまり現れなかった生徒もいる。total（合計点）の得点の伸びが緩やかな理由として、discourse（文のまとまり）の得点の伸びがわずかであったことだけでなく、語彙や文法など英文を正確に書く力の未熟さも関係している可能性がある。今後さらに研究を深める必要があると考える。

なお、クラス全体で最後まで課題にしっかり取り組む雰囲気を保つことができたことも、指導の結果が広く表れた要因として考えられる。課題に取り組む生徒に、目標である「まとまりのある文章を書けるようになる」とつねに声かけを行ったことが、良い効果をもたらしたのかも知れない。

また、コミュニケーション英語Ⅰの授業で帯活動として実施している自分の考えを短時間でまとめさせるスピーキング活動が、今回の「書くこと」の活動に良い効果を与えている可能性があると考えられる。授業の最初の10分程度で行う活動だが、あるテーマについて1分間ペアで会話をする。ペアを換えて会話を2度行うが、毎回、活動の終わりに自分の考えを書いてまとめる時間を設定している。その日、自分が言ったことを思い出し整理しながら、書いてまとめる。その際、辞書は自由に使ってよいことにしている。1～2分程度の限られた時間での作業であるが、生徒が意欲的に取り組んでいる活動の一つである。

③の「型・枠」を意識しながら文章を書くことができるようになるという点については、指導後のアンケートやインタビューで生徒から感想はほとんど聞かれなかった。筆者が示した「型・枠」が「書くこと」に取り組むときに役立ったことは間違いないようだが、その「型・枠」がそのまま他の課題に直接応用

できるわけではないので、その有用性を認識しにくかったものと判断する。

## 6. おわりに

生徒が「まとまりのある文章を書けるようになる指導」として、今回の指導はいくらかの成果があり、また「内容」や「一貫性」という視点からも、英文全体の質が上がったといえるのではないかと、これまで英語の授業で行われてきた「書くこと」の指導では、「談話的気づき」を促進するような指導は非常に少なかった。今後、生徒の書く英文の質を向上させるための指導法の一つとして、今回行ったような「談話的気づき」を促進する指導を試みる価値は十分にあると考える。

加えて、指導の結果があまり現れなかった生徒の total (合計点) の得点の伸びが緩やかであった理由の一つとして、語彙や文法など英文を正確に書く力の未熟さの可能性を指摘したが、生徒への指導後のアンケートやインタビューの感想にも「これからもっと文法や単語を勉強すれば書きたいことが書けるようになると思う」など、同様の回答が見られた。大井(2012)が『特定の課題に関する調査(英語:「書くこと」)調査結果(中学校)』を分析する中で、「やはり語彙リストがあると学習者は書きやすいということであると思われる(p.19)」と述べていることから、段階的な指導の一つとして、生徒に語彙リストを示して「書くこと」の課題に取り組みさせる方法も考えられる。

今後も、生徒が自由に自分の考えを表現することができるようになることを目標とし、「書くこと」の指導の研究を続けたい。

## 引用文献

株式会社ラーンズ(2018). 『技能演習シリーズ Path to Writing 1』.

門脇薫・西馬薫(1999). 『みんなの日本語初級やさしい作文』スリーエーネットワーク.

国立教育政策研究所教育課程研究センター(2012). 『特定の課題に関する調査(英語:「書くこと」)調査結果(中学校)』.

松本茂ほか 14 名(2017). 『ONE WORLD English Course 3』教育出版.

三浦順治(1987). 『和文英訳を超えた新英文構成法』開隆堂.

宮谷敦美(2001). 「談話構造分析を活かした初級作文指導の可能性」『岐阜大学留学生センター紀要』. (2001), p.p.17-30.

文部科学省(2018). 『高等学校新学習指導要領』.

日本英語検定協会(2018). 「Dr.White の英検 3 級ライティングテストに挑戦!」.

[https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/grade3/pdf/DrWrite\\_grade3.pdf](https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/grade3/pdf/DrWrite_grade3.pdf) 2019.01.19

大井恭子(2012). 「まとまりのある文章を書かせる指導」『英語教育』, 61(3), pp.17-20, 大修館書店.

大井恭子(2018). 「英検 2 級・準 2 級・3 級ライティングテストを活用した発信力の育成」『季刊誌英語情報 2018Spring』, p37, 日本英語検定協会.

田中正道(1994). 「第 6 章英語教育評価論」片山嘉雄・遠藤栄一・佐々木昭・村松幹男編『新・英語科教育の研究』 pp. 272-301, 大修館書店.

達川奎三(2013). 「日本人中学生の英語『談話能力』に関する考察(1)ー中学生はどの程度「一貫性」を理解・意識できるかー」『広島外国語教育研究』, (16), pp.125-146.